

低級感心官

x

伊藤永之介

最近所々に散見する通俗小説節の論争の中
で面白く思ふのは、貴族的趣味の排斥である。
三上於菟吉、森本露天の諸氏の所論の甲に
それら頼はれる。私は本誌に心境小説の衰微
に就いて寸言した事があるが、心境小説は

こゝに職業的作家の低級趣味の運命は、事實
に必然に物語つて呉れて居るやうだ。僅か數
年を關したに過ぎない心境小説は、最早現在
の新進作家の間には餘り見出されなくなつて
居るではないか。三上、森本両氏の所論に窺
はれる貴族趣味の排斥と云ふ事では、森本氏
が難いて居る私の説の事では、感嘆と云ふ域
から一步を進めて鮮明に論評されたら面白い
だろうと思ふ。

尚早

職業的作家の生活圏内に在りしか通用しな